



音楽評論家 日下部吉彦さん

同志社大学英文学科卒業。朝日新聞記者から朝日放送音楽プロデューサー、朝日放送解説委員長を歴任。1991～98年大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス初代館長として数多くのオペラを制作。現在、大阪音楽大学理事。評論、演奏批評を執筆のほか、ラジオ、テレビなどでも活躍。KEIBUN文化講座「名作オペラへご招待」講師（下記参照）。

[オペラ総力特集①]
OPERA de TALK
 もっとステキに感動体験!
オペラデビュー しましう。

「びわ湖大津 秋の音楽祭」の注目は、プッチーニの『ラ・ボエーム』とワーグナーの『トリスタンとイゾルデ』名作オペラの競演。これから初めてオペラを観ようとする方、オペラの魅力をもっと深めたいというファンの方には、とっておきのプログラム! 「KEIBUN文化講座」でおなじみの音楽評論家・日下部吉彦先生に、フリーアナウンサー・木谷美帆さんが、オペラの魅力や楽しみ方をお聞きしました。

オペラは日常のもの
 リラックスした気分
 出かけてみましょう

木谷 ● すごく初歩的なことですが、オペラは劇場に行つて観ますよね。何を着ていけばいいのか、悩む方も多いいと思います。

日下部 ● おしゃれをしたという人は、もちろんドレスアップして出かけても構わないですよ。だけど正装でないといけないなんてことはまったくない。実際、欧米の一流のオペラハウスでも、ジーパンでスポーツシャツという人もいますから。私は基本的にはどんな服装でもいいと思います。

木谷 ● すごくホッとしました。

日下部 ● オペラに行くときは普段とちよつと気持ちが変わり、非日常ではあるけれど、オペラは特別なものじゃなくて、日常のものだと考えたほうがいいですね。

木谷 ● オペラはあまり馴染みがないものだと思いますが、私たちの日常の中でよく聴くオペラの曲はありますか。

日下部 ● 例えばヴェルディの『アイダ』の凱行進行曲。サッカー場で聴いたことがあるはずです。応援歌のようにみんなが必ず歌う。

木谷 ● オペラは兵隊の位でいうと隊長。せいぜい大尉ぐらいにしてやれと。それも気に食わない。この初演も大変評判が悪かった。

木谷 ● 今はすべて人気作ですが、そういうことを知っているのと、より面白く観られますよね。

絶対泣けるオペラ!
 『ラ・ボエーム』が
 やってきます!!

木谷 ● もうすぐ『ラ・ボエーム』の公演があります。この作品についてお聞かせいただけますか。

日下部 ● 『ラ・ボエーム』はプッチーニの作品。この作曲家は悲劇ばかり書いています。紅涙を絞るというか、観終わったあとみんなハンカチを濡らしている。なかでも有名なのが『蝶々夫人』『トスカ』。そして『ラ・ボエーム』。主役のミミはとてかわい女性で、最後は病気で恋人の腕の中で死んでいくんです。

木谷 ● 泣けるお話ですよ。

日下部 ● 舞台はフランス、パリのカルチェラタン。貧

それぐらい日常的なものになっていきます。

木谷 ● あれ、オペラの曲だったんですね。ちよつと親しみが湧いてきました。

日下部 ● サッカー場のような野外劇場は、イタリアにもたくさんあります。その中でも一番有名なのがヴェローナという町にあつて、これが2万人ぐらいいれる大きさ。

木谷 ● スタジアムみたいですね。

日下部 ● 古代ローマの円形劇場が残つていて、夏になったら毎晩そこで野外オペラをやっています。面白いのは、ヴェローナの上空を飛行機が飛ぶので、開演時間は最終便が終わる夜の9時! だから終演は夜中の1時ぐらいいるんです。

木谷 ● みんな大丈夫なんですか。次の日も普通に朝起きて働くんですよ。

日下部 ● イタリア人って全然平気。あそこはシエスタといつて昼寝の習慣があるから(笑)。

木谷 ● 元氣ですね。

日下部 ● 甲子園球場のアルプススタンドみたいな客席にもいっぱい人がいて、そこでもうリラククスした感じ。休憩時間になるとホットドッグやジェラートを売りに来ると。

木谷 ● 本当にリラククスしてますね。マナーとか大丈夫なんですか。

日下部 ● イタリアはオペラの本場。お年寄りから子どもまで、みんなオペラが大好きで、マナーはきつちりできている。ヴェローナは観光客も多いから、有名なアリアが終わったら「ブラボー」とか叫んで拍手するでしょう。ところが地元の人たちは「シーツ」と言う。ここはまだ拍手はしちゃいけないと。そのへんはさすがだなと思います。

木谷 ● オペラにちよつと興味が出てきて、さあ観てみようと思つても、作品がいっぱいありますよね。

日下部 ● 例えばイタリア語で歌われるものが多いけれど、これはイタリアがオペラの発祥地だから当然。ドイツ語で歌われるオペラもたくさんあります。ドイツのオペラにも皆さんの身近なものがあつて、ワーグナーの『ローエングリン』に出てる一節。タンタッタターン、タンタッタターン…。

木谷 ● 有名な結婚進行曲じゃないですか。

日下部 ● そうです。ところが、ちよつとさういふけれど、このオペラではその結婚は破滅に陥つていく(笑)。

泣けるんでしょうね。

日下部 ● お芝居はもろろん素晴らしいけれど、お芝居だけじゃなくて、そこに歌があり、オーケストラが入る。これは素晴らしいですよ。

木谷 ● 総合芸術ですよ。やっぱり劇場に行つて、その場で演じられる生の空気にふれるべきですね。

日下部 ● 今回公演するバーデンの劇場は、ウィーンの外、あの有名なウィーンの森の中にある町のオペラハウスです。バーデンは昔から王侯貴族の別荘地で、そこで保養を兼ねてオペラを楽しんでいました。その伝統が今もあります。



木谷 ● すてきなところなんですね。

日下部 ● けつして大きな劇場じゃないけれど、本当に質の高いオペラをずっとやっています。

木谷 ● バーデンの空気が、そのままびわ湖ホールにやってくるわけですね。これは本当に貴重な機会です。楽しいお話、ありがとうございます。

木谷 ● 泣けるお話ですよ。パリのカルチェラタン。貧

フリーアナウンサー 木谷美帆さん

兵庫県西宮市出身。大阪女子大学(現在の大阪府立大学)卒業後、エフエム山崎のアナウンサーを7年間勤め2001年3月に同局を退社。現在、大阪を中心にフリーアナウンサーとして活躍。e-radio「レイクサイドモーニング」のパーソナリティー(水・木曜担当)。「KEIBUN MUSIC AROUND」(10:20~10:30)の声としてもおなじみ。

「覚悟」をもって
壮大な音楽に埋もれる

音楽的にも、アリアを中心とし



「トリスタンとイゾルデ」の官能の世界へ

「ワグネルリアン」を唸らせる「大巨編」

これはワグナー自身の「不倫」体験から生まれた作品だといわれています。妻との関係が冷えきったワグナーは、パトロンである商人の妻を愛するようになり、許されぬ恋に溺れて苦悩します。この生々しい経緯を投影したのが『トリスタンとイゾルデ』。作曲だけでなく、自ら台本を書いてオペラ化したというから、これこそ紛れもないワグナーの世界観なのです。

「ワグネルリアン」を唸らせる「大巨編」

ワグナーの『ラ・ボエーム』で描かれた若者たちの「純愛」に比べ、『トリスタンとイゾルデ』は、まさに「不倫」のドラマ。どろどろとした男と女の愛欲の海を、羅針盤もなく船が進んでいくような、ずっしりとした重みを感じさせるオペラなのです。人間の心理の深層を見出そうとする作曲者の眼差しが感じられ、愛と死を謳うオペラの究極のかたちを追い求めた傑作といえるでしょう。

た歌だけでなく、オーケストラのテクニクを駆使した、西洋音楽史にとってもエポック的な作品です。それまでの調性に基づいた音楽が崩壊するきっかけとなった『トリスタンとイゾルデ』は、絶え間なく旋律の流れが持続し、音楽が押し寄せてくるような「無限旋律」の表現など、これがまたオペラ全体を濃密で官能的なものにしています。さらにオペラ愛好家を唸らせるのは、約5時間(休憩を含む)に及ぶ公演時間! この長大なオペラをビギナーの方に「お気軽にどうぞ」

「いま満を持してワグナーに挑戦!」

全曲上演の機会があまりないこの傑作オペラ『トリスタンとイゾルデ』がびわ湖ホールに登場! 今年で4回目を迎える「沼尻竜典オペラセレクション」では、満を持してこの作品に挑戦します。ワグナー作品の上演に定評があるドイツのケムニッツ歌劇場の協力を得て、演出は同劇場のオペラ監督ミヒャエル・ハイニケが担当。イゾルデ役の小山由美をはじめとするドイツで活躍する日本人歌手を中心に、世界で最も素晴らしいトリスタン歌の一人と称されるジョン・チャールズ・ピアースを迎え、これにびわ湖ホール声楽アンサンブルの精鋭メンバーが加わります。ワグネルリアンでなくても、オペラファンなら絶対見逃せません!

◎「トリスタンとイゾルデ」関連企画

「アンサンブル・ラロ(ピアノ四重奏団)」

9月24日(金)午後7時開演
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール小ホール
一般3,500円 青少年(25歳未満)1,500円

「寺嶋陸也 エラールピアノリサイタル」

10月9日(土)午後2時開演
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール小ホール
一般3,500円

※9/18(土)プレトーク・マチネ、9/25(土)「トリスタンとイゾルデ」ロビーコンサート、10/16(土)オペラ・ワークショップも予定されています。

びわ湖ホール事業部 ☎077-523-7150

ワグナー作曲「トリスタンとイゾルデ」

全3幕(ドイツ語上演・日本語字幕付)

10月10日(日)、16日(土)各午後2時開演 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール
S席15,000円 A席12,000円 B席10,000円 C席8,000円 D席・E席完売
U30席(30歳以下)3,000円 U24席(24歳以下)2,000円

※KEIBUNの取り扱いはS・A・Bの各一般席のみ

- 指揮:沼尻竜典 ●演出:ミヒャエル・ハイニケ(ケムニッツ歌劇場オペラ監督)
- 出演:ジョン・チャールズ・ピアース、小山由美、松位浩 他
- 合唱:びわ湖ホール声楽アンサンブル 他 ●管弦楽:大阪センチュリー交響楽団

プッチーニ作曲「ラ・ボエーム」

全4幕(イタリア語上演・日本語字幕付)

9月23日(木・祝)午後4時開演 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール
S席12,000円(1階席完売) A席10,000円 B席8,000円 C席・D席完売

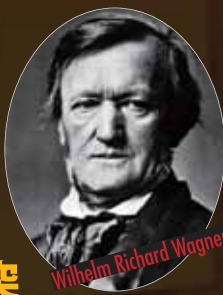
- 指揮:クリスティアン・ポーラック ●演出監督:ルチア・メシュヴィッツ
- 合唱:Bühneバーデン市劇場合唱団 ●管弦楽:モーツァルティアーデ管弦楽団

[オペラ総力特集②]



『ラ・ボエーム』

プッチーニ vs ワグナー 2大傑作オペラが激突



『トリスタンとイゾルデ』

純愛か? 不倫か? オペラで愛を極める!

徹底解剖!

ヴェルデと並ぶイタリアオペラ最高の作曲家プッチーニの名作『ラ・ボエーム』と、ドイツオペラの雄・ワグナーの『トリスタンとイゾルデ』が、びわ湖ホールに登場。愛と死をテーマに描きながら対極に位置する2つのオペラの魅力を分析します。



「ラ・ボエーム」

ビギナーの入門編にぴったりの名作
愛と青春のグラフィティ

めいっばいのオシャレをした2人は互いに見惚れるほどきらきら輝き、ヒロインは『ラ・ボエーム』のアリアに大泣き。終わりにするはずの恋が、このまま終わるわけがなく...。彼らが観た『ラ・ボエーム』は、プッチーニの『トスカ』『蝶々夫人』と並ぶ三大名作のひとつ。イタリアオペラを代表する作品です。物語は誰もが感動できる、悲しくも美しいメロドラマ。とりわけプッチーニの旋律は美しく、思わず聴きほれるほど。オペラをは

「ラ・ボエーム」とは「ボヘミアン」、つまり「放浪者の意味。貧しくも希望を胸に自由を謳歌する芸術家の卵たちの日常を描きながら、ひとつの愛が芽生え、はかなく消えていく、青春のほろ苦いラプソトリー」が綴られます。原作はアンリ・ミルジユの小説『放浪芸術家たちの生活風景』。プッチーニ自身も20代で故郷を飛び出し、ミラノで苦しみながら勉学に励んだ体験があり、ひととき思い出の強い作品だったのでしょうか。それだけに台本には次々と注文を出して、作家を酷使したといえます。その期待に応えたのがルイーゼ・リッカとジュゼッペ・ジャコーザ。プッチーニの出世作『マノン・レスコー』では



KEIBUNオペラ・オペレッタシリーズでおなじみ、来日15周年を迎えるウィーンの森バーデン市劇場による『ラ・ボエーム』は、ルチア・メシュヴィッツ演出、クリスティアン・ポーラック指揮で、日本公演のために選りすぐった本場ヨーロッパで活躍するソリストをフィーチャー。びわ湖ホールの舞台を、感動で染め上げてくれることでしょう。

悲しくも美しい... 珠玉のイタリアオペラ

ニューヨークのメトロポリタン歌劇場にて『ラ・ボエーム』上演! そんなわくわく感ではじまるアメリカ映画『月の輝く夜に』を覚えていませんか?

登場人物はイタリア系アメリカ人。ひよんなことからフィアンセの弟(ニコラス・ケイジ)とできちゃったヒロイン(シエラ)は、最後にオペラを観て別れる約束をします。

じめて観る方には絶対おすすめ
です。

プッチーニを支えた 2人の台本作家

「ラ・ボエーム」とは「ボヘミアン」、つまり「放浪者の意味。貧しくも希望を胸に自由を謳歌する芸術家の卵たちの日常を描きながら、ひとつの愛が芽生え、はかなく消えていく、青春のほろ苦いラプソトリー」が綴られます。原作はアンリ・ミルジユの小説『放浪芸術家たちの生活風景』。プッチーニ自身も20代で故郷を飛び出し、ミラノで苦しみながら勉学に励んだ体験があり、ひととき思い出の強い作品だったのでしょうか。それだけに台本には次々と注文を出して、作家を酷使したといえます。その期待に応えたのがルイーゼ・リッカとジュゼッペ・ジャコーザ。プッチーニの出世作『マノン・レスコー』では

バーデン市劇場による「ラ・ボエーム」は必見

詩人のロドルフォとお針子のミミの出会いから、ミミがロドルフォのもとで働くことになる別れのクライマックスまで、見どころ聴きどころが満載。甘美なメロデーと歌に酔い、劇的な幕切れに感動は必ずです。



interview

Profile

滋賀県出身。3歳よりヴァイオリン、4歳よりピアノをはじめ。滋賀県立石山高
等学校卒業後、渡仏。ヴァイオリンをジャン・レネール氏に師事。オルネ・ス・ボ
ア音楽学校研究科修了、スコラ・カンタム、コンサーティスト科修了。フランス
各地の音楽アカデミーに参加。室内楽の経験も豊富で、マンフレッドカルテット
の指導を受け、フォンテーヌブロー城でのコンサートにも出演。2007年に帰国。
福井大学フィルハーモニー管弦楽団にソリストとして共演するなど、幅広い演奏
活動を行っている。現在大阪フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン奏者。

Tomoko Matsukawa

好

評を博した7月の「バーバーの知られざる世界①木管五重奏」に続く第2弾、「バーバーの知られざる世界②弦楽四重奏」が、「びわ湖大津秋の音楽祭」参加公演として、10月にしがぎんホールで開催される。演奏メンバーの一人であるヴァイオリンの松川朋子さんは滋賀県の出身。「瀬田川を見るとほっとします」という彼女が、公演について語ってくれた。

「サミュエル・バーバーは、20世紀に活躍したアメリカの作曲家で、その抒情的な音楽スタイルから『最後のロマンティスト』と称されることも。静かで叙情的な旋律の中に、ドラマチックで情熱的なハーモニーが重なる美しい響きが魅力です」

今回のコンサートは松川さんをはじめ、メンバー全員が大阪フィルハーモニー交響楽団の若手メンバー。気心の知れた仲間ならではの、息の合った演奏を聴かせてくれることだろう。

「唯一の男性、佐久間聡一さんは場を和ませることに長けたムードメーカー。吉田陽子さんはガールズトークに花が咲く雑談仲間（笑）。経験豊富な石田聖子さんは、頼れるお姉さん的な存在です。オーケストラでの演奏と異なり、アンサンブルでは一人ひとりの個性が明確になりますので、そのあたりも楽しんでいただければ」



「どの作曲家のどの楽曲を選ぶのか、4人で議論しました。バーバーの武満徹、生誕200年のシューマンという、メモリアルイヤーの作曲家を取り上げる。『どの作曲家のどの楽曲を選ぶのか、4人で議論しました。バーバーの武満徹、生誕200年のシューマンという、メモリアルイヤーの作曲家を取り上げる。』

ヴァイオリニスト 松川朋子

気鋭の若手メンバーによるバーバーの弦楽の世界!

Information

〈平成22年度びわ湖大津秋の音楽祭 参加公演〉

【しがぎんホールスペシャル・シリーズ】

バーバーの知られざる世界②「弦楽四重奏」

10月3日(日) 15:00開演 しがぎんホール
会員3,000円 学生2,000円 小・中学生1,000円(全席自由)

- ※KEIBUN友の会会員以外(一般)は500円アップ
- 出演:大阪フィルハーモニー交響楽団メンバー 佐久間聡一、松川朋子(ヴァイオリン)、吉田陽子(ヴィオラ)、石田聖子(チェロ)
- 曲目/バーバー:弦楽四重奏曲短調op.11(弦楽のためのアダージョ原曲)、弦楽のためのセレナードop.1、武満徹:ア・ウェィ・ア・ローン、シューマン:弦楽四重奏曲第1番短調op.41-1

琵琶湖畔はお祭りムード!今年も見どころ満載です。

びわ湖ホール

音楽祭のオープニングを飾る “左手のピアニスト”館野泉登場!

注目の Opening

今年で演奏活動50周年を迎えるピアニスト館野泉。孤高の鍵盤詩人として熱い支持を得ながらも、2002年に病氣(脳溢血)で右半身不随に。2年後「左手のピアニスト」として復帰し、その健在ぶりはファンを驚かせました。

彼の左手のために第一線で活躍する作曲家たちが楽曲を提供するなど、レパートリーはますます充実。今回の公演では、バッハやスクリャーピン、吉松隆の作品が演奏されます。吉松隆が三手連弾のために編曲したブラームス、モーツァルトの子守歌を、弟子の平原あゆみと共演するのも見どころ。

彼が長年暮らすフィンランドの湖沼風景と重なる琵琶湖のほとり、どんな豊かな響きを聴かせてくれるのか、いまから楽しみます。

館野泉ピアノリサイタル

～左手のピアニズム～
9月19日(日)午後2時開演
滋賀県立劇場びわ湖ホール大ホール
S席3,000円 A席2,000円 青少年1,000円



スロヴァキア放送交響楽団

11月18日(木)午後7時開演
滋賀県立劇場びわ湖ホール大ホール
S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円
●演奏:スロヴァキア放送交響楽団
●指揮:マリオ・コシツク
●ピアノ:スタニスラフ・ジェヴィツキ

感動の Closing

名門オーケストラでクライマックス!イケメンの若手ピアニストにも注目

13年ぶりに3度目の来日公演を果たすスロヴァキア放送交響楽団は、スロヴァキアの首都ブラチスラヴァを本拠地とする名門で、世界中で活動を続けています。ヨーロッパのレコードレーベルはもちろん、香港のナクソスやマルコ・ポーロに大量の音源があり、そのタイトルは200を超え、レパートリーの広さがうかがえます。

特にホミア(現在のチェコ南西部)出身のドヴォルザークがアメリカから故郷に向けて作曲した『新世界より』は、スラブの伝統を受け継ぐこのオーケストラにとつて、もともと得意とするところでしょう。若手ピアニスト、スタニスラフ・ジェヴィツキが加わって演奏するチャイコフスキーのピアノ協奏曲も聴きどころです。



その他の公演

- ▶9/18(土) 14:00 アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～(小ホール)
- ▶10/7(木) 13:00 ロビーコンサート～秋空に響く、ヴァイオリンの音色～(メインロビー)
- ▶11/22(月) 13:00 ロビーコンサート～秋に聴くホルンの音色～(メインロビー)
- ※9/18は500円(要事前申込)、ロビーコンサートは無料、事前申込不要。
- 問 びわ湖ホール事業部 ☎077-523-7150

まちなか

◎びわ湖ホール以外の主な音楽祭参加公演

9/23(木・祝) 14:00	第6回大津ユースオーケストラ	○大津市民会館大ホール
9/23(木・祝) 14:00	さざなみ狂言会	○大津市伝統芸能会館
10/3(日) 15:00	バーバーの知られざる世界②「弦楽四重奏」	○しがぎんホール
10/17(日) 15:00	パシフィック・カルテット・ヴィエナ	○フィガロホール
10/31(日) 15:00	林裕チェリスト・コンポーザ・コレクション	○フィガロホール
11/3(火・祝) 14:00	真声会滋賀支部例会 第22回湖のしらべ	○しがぎんホール
11/6(土) 18:30	山根康広コンサート	○大津市民会館大ホール

※詳細はリスト欄をご覧ください。

●第2回大津ジャズフェスティバル

市民ボランティアの手作りによる「大津ジャズフェスティバル」が今年も開催。テーマは「地元の繁栄と共に」。ジャズと一緒に街歩きを楽しみましょう。大津ジャズフェスティバル実行委員会主催
▶10月16日(土)・17日(日) 12:00～17:00
○大津まち中ステージ…大津中心市街地の商店街を中心に17会場を予定
○びわ湖なぎさ通りステージ…浜大津の湖岸を中心に約10会場を予定
※詳しくはホームページ参照 <http://otsu-jazz.com/>

◎まちなかもイベント盛りだくさん!

- 大津百町市
▶9/18(土)・10/16(土)・11/20(土) 11:00～15:00
○寺町商店街、ナカマチ商店街、浜大津商店街 他
- 大津まちなか食と灯りの祭2010
▶10/2(土)～12/31(日)
イルミネーション点灯 ○JR大津駅～なぎさ公園～明日都浜大津
▶10/9(土)・23(土)・11/13(土)
なぎさコンサート ○なぎさ公園おまつり広場
- 大津祭
▶10/9(土) 夕刻～21:00 宵宮
▶10/10(日) 9:00～17:30 本祭(曳山巡行)
- はまおまつフェスタ2010
▶10/30(土)・31(日) 10:00～16:00 ○明日都浜大津
☆その他、浜大津アークス、明日都浜大津、まちなか交流館、スカイプラザ浜大津などで多彩なイベントを開催します。



●第15回 湖国を描く絵画展 in しがぎんホール

滋賀県内の美しい風景を描いた絵画作品を一般公募し、入選作を県内4カ所で開催する展示会です。大津市では「びわ湖大津 秋の音楽祭」の期間中に、しがぎんホールで開催。この機会にぜひご覧ください。
▶11月5日(金)～11日(木) ※会期中休館日なし
午前9時～午後5時(入館は閉館30分前まで) 入場無料
財団法人滋賀県文化振興事業団(しが県民芸術創造館) ☎077-564-5815